



正也さん 三坂 裕美子さん (自写)

HOPEES
希望の声を届けます

6月14日、カメラ教室に参加された三坂さん親子。お互いの撮影した写真を見ながら会話が弾みます。「家族旅行の時など、よく写真を撮りますが、目的をもって撮影すると楽しいですね」と話す息子の正也さん。「ほんの少しの時間でも、家族一緒に過ごす時間を大切にしています」と笑顔の母・裕美子さん。「これからも村イベント等に参加し、無理なく、親子での時間を増やしていきたい」と話してくれました。ファインダーを通して世界を共有する親子。これからも素敵な家族の思い出写真がどんどん増えていきそうです。

つくってたべよう

季節限定の美味しさ!
「手作り赤しそジュース」

- (材料)
- ・赤しそ …… 200～300g
 - ・水 …… 2l
 - ・クエン酸 …… 25g
 - ・砂糖 …… 1kg



- (作り方)
- ①赤しそは洗ってゴミなどを流しておく。
 - ②鍋に水と赤しそを入れて沸騰させ、煮出したらその葉を取り出して砂糖を加える。
 - ③再沸騰したら火を止めて粗熱をとってクエン酸を加える。

協力：西尾ツネさん(二枚橋・須萱)

飯舘村までい大使

とは…
人と人が良好につながり、相互が助け合う豊かな社会になって欲しいという願いを含め、村が提唱する「までい」を広く発信・PRしたり、村主催イベント等に出席したりします。



▲村長から委嘱状を受ける大内彩加さん

村出身女優
大内彩加さん
までい大使に

6月5日、村役場飯野出張所において、飯舘村までい大使委嘱状交付式が行われ、村出身の女優・大内彩加さん(草野)に菅野村長より委嘱状が手渡されました。までい大使は大内さんが13人目です。
大内さんは震災前、村から県立原町高校へ通学し、放送部で全国レベルの活躍。高校2年生の時に原発事故の影響で群馬県に避難してからも、夏の高校野球群馬大会の開会式で司会を務めるなど活動を継続していました。その後は幼いころから夢だった女優を目指して上京。現在はテレビドラマや舞台等で活躍を続けています。
式では村長が「最年少のまでい大使の活躍を期待しています」とあいさつ。大内さんは「幼いころから村が大好きでした。村外の方に飯舘村出身です、と言ったときに『震災、大変だったね』よりも『ああ、あの素敵な村!』と言ってもらえるように村の良さを広めたいです」と意欲を見せていました。

入札結果をお知らせします

入札日/5月20日 (単位:円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
第1号 帰還再生生活道路整備測量設計業務	16,848,000	(有)大内測量設計事務所	平成28年3月末
第2号 帰還再生生活道路整備測量設計業務	18,684,000	(有)大内測量設計事務所	平成28年3月末
環境放射線モニタリング業務	118,260,000	(株)菊池製作所	平成28年3月末
村内放射線モニタリング事業業務	19,224,000	NPO 法人ふくしま再生の会	平成28年3月末
飯舘村交流センター(仮称)建設工事監理業務	14,040,000	(株)久慈設計 東京支社	平成28年3月末
沖縄までの旅業務	8,558,300	(株)JTB東北 法人営業福島支店	平成27年10月末
「未来への翼」ドイツ研修業務	6,857,280	(株)JTB東北 法人営業福島支店	平成27年10月末

入札日/6月2日 (単位:円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
セシウム除去用給水器(カートリッジ)購入 第1号	1,632,960	倉敷繊維加工(株)	平成27年6月上旬

こころのぽけっと

もう1つの村の復興「明るい自分づくり」

近頃、あまり使われなくなった言葉に「ねくら」「ねあか」というものがあります。
「ねくら」はおとなしくて、自己主張しない人に使われたり、「ねあか」は一見やかましい人や騒がしい人と言ったりします。だとしたら必ずしも「ねくら」が悪くて「ねあか」が良いということでもありません。
本当の「ねあか」「明るい人」というのは自分だけ上機嫌の人ではなく、自分の周りの人まで常に明るくする力や性格を持っている人というはずなんです。

相手がうれしくなるような温かな明るさ、そしてユーモアのあるゆかいな明るさがあるって始めて本当の「ねあか」というものでありましょ。これは中々難しいことです。もって生まれたものもあるでしょうが、それなりに相手が笑顔になるような話題をストックしておいて、皆を明るくするちょっとした努力もいるからでありましょ。

こんなことをなせ思ったのかというと、避難生活の中でいろんな形で村民に会う機会があります。その時に、冗談やユーモアを言って雰囲気をもませ明るくしてくれる方が結構たくさんおられます。そういう時には、こちらとしては本当に大助かりです。

私などはこの災害対応で「自分はどうも性格が悪くなってしまったのではないか」と思う程ですので、その時にこの「ねあか」の方が座持ちをしてくれるとホッとします。一方で、自分としても「ねあか」にならねばと反省して帰ってくるようになります。

ユーモアをもって明るい笑顔を忘れずにいれば、相手も気分が悪くならないのであって、この避難中では難しいことかもしれませんが皆で「明るい自分づくり」に努めてみることも、村のひとつの復興策かもしれないなと思っただけでした。

平成27年6月19日 飯舘村長 菅野 典雄